



我邦中古商業ノ『座』ニ就テノ雜見(2)

福田, 徳三

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 11(1):19-36

(Issue Date)

1911-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051741>



我邦中古商業ノ『座』ニ就テノ雜見 (其二完結)

東京高等商業學校講師

法學博士 福田 德三

(四)

茲ニ於テ予ハ更ラニ想像ヲ逞クシテ座ナル語ノ起源ニ思ヒ及ボサルヲ得ザルナリ。歐洲ノ『ギルド』ハ獨逸語ノ『ゲルド』ト共ニ Leistung, Opfer ノ原意ヲ有スルモノナリトノ説（クリム以下、又ラムブレヒトニモ此考アリト覺ユ）ヲ請入ル、トシテ、予ハ二様ノ意味ニ於テ我邦ノ座ノ語源ヲ考ヘ得可シト思フモノナリ。其一ハ座ハ即チ座商ノ座ナリ、座ナリトノ考ナリ。座ハ即チ座商ノ營業所ニシテゾハ市ノ中ニアリ、換言スレバ a seat in the market ナリ。朝鮮京城ノ六矣塵ヲ一見シタル人、又桐生ノ織物市場等ヲ見タル人ハ塵ハ即チ Stallung 棚又ハ坐席ノコトニシテ、其ガ漸次規模ヲ擴ゲタルナル可シトノ予ノ想像說ヲ一笑ニ附セザル可シ。而シテ茲ニ最モ趣味アルコトハアシユレー氏ノ英國經濟史ニ記セル左ノ一條ナリ。

The most usual term for the rights of membership was seat, sedes: members were said to seek, have, sell, or give their seat, which was often described as below or above that of another—a phrase possibly referring originally to a place in the market. The word gild is also sometimes used for all the rights of membership……I. i. p. 73.

『セデス』ハ即チ座席ノコトナリ。市ノ中ニ一定ノ座ヲ得テ茲ニ其商品ヲ陳列スルヲ稱シテ座ト云ヘバ、絹ヲ置クハ絹座ナリ、米ヲ置クハ米座ナリ。振賣ニアラズ又タ立賣ニアラズトノ意ヲ含メリ。後世ハ客ニ見スルヲ主トシテ見世棚ト稱セシモ、初メハ先ヅ市場ニ一定ハ座ヲ得ルコトガ最緊要事ニシテ、而シテ坐席ヲ有スルコトガ其商人ヲ特色付ケシガ故ニ塵ハコトヲ座ト云ヒシカ。座ノ俗字廐ガ座ニ混ジ易カリシコトモアル可キカト思ヘドソハ或ハ餘リニ牽強ナラシムナリ。然レドモ亦予ニ第二ノ考アリ。其ハ甚ダ大膽ナル推測ニ出ヅルモノ乍ラ思フテ云ハザルモ惜シケレバ試ミニ云ハン。塵モ座モ本來ノ用字ニアラズ單ニ漢字ノ轉用ノ一例ナリ。其本來ノ語ハ『クラ』又ハ『イチクラ』是ナランカ。商品、家具等ヲ貯藏スル所ヲ今モ『クラ』ト稱シ、『倉』又ハ『藏』ノ漢字ヲ充テ用エリ。而シテ塵、座ノ字ト通ジ用ラル、『肆』ナル漢字ハ之ヲ『イチクラ』ト訓ムナリ。即チ

和名抄十、居宅

肆 唐令云、諸市每肆立標題四反、和名伊知久良。

延喜式ハ唐令ノ肆ヲ廬ニ書ケリ、『每廬立勝題號』トアル其ナリ。和名抄ノ外『類聚名義抄』伊呂波字類抄モ亦肆ヲ『イチクラ』ト訓ムノミナラズ、廬、塵ノ二字モ亦『イチクラ』ト訓ムコトアリ。即チ古事類苑所引 六二頁

類聚名義抄七 廬上俗下正 塵俗通、音變イチクラ

トアリ、『肆ハ貨鬻ノ物ヲ陳ズル所以ナリ』トアレバ、商品ヲ陳列スル一定ノ營業所ヲ『イチクラ』ト邦語ニテ稱ヘシコトハ疑ナキナリ。サテ『イチクラ』ハ私見ニテハ『イチ』ト『クラ』トヲ結合セルモノナリ。『イチ』ハ即チ『市』ナリ。故ニ『イチクラ』トハ市ノ『クラ』ナリ。此ニ於テ推測ハ更ラニ一段ヲ飛躍セザル可カラズ。『クラ』トハ何ゾヤ是ナリ。想像ニハ限界ナシ。予ハ思フ馳セテ幽遠ナル神代ニ至リ、素盞鳴尊無狀ノ罪アリ諸神會議ニ於テ判決ヲ受クルノ時ニ及ベリ。即チ

古事記上卷 田中賴庸氏校訂本 第一卷二十三葉

『於是八百萬神共議而於速須佐之男命オホセチクラオモドヲ負千位置戶』

日本書紀卷第一

寛文九年板本
第二十九葉

「然後諸神歸罪過於素盞鳴尊而科之以千座置戸」

トアル是ナリ。本居宣長ハ「千位」ヲ釋テ曰ク

「千位ハ書紀ニ千座ト作り、私記ニ座者是置物之名也ト見エテ其祓物ヲ居置物

案ニテモ何ニ
デモアルベシ

ヲイフ、人ノ座處ヲ久良章ト云モ同意ナリ、故レ此記ニハ位ノ字ヲ書リ」

古事記傳九
之卷第三葉

飯田武郷氏モ「千座」ニ注シテ「其祓物ヲ居置物ヲイフ」通釋第一。四頁ト云ハレタリ。此ニヨ

ツテ考フルニ座ノ字ヲ人ノ座スル處又物ヲ置ク處ノ二義ニ通ジテ「クラ」ト訓ミ又

充テ用ユルコトナラン。而シテ大祓詞ニ千座置座アリ、臨時祭式ニ置座本アリ。本居

氏ハ更ニ曰ク「今考フルニ置座トハ祓物ヲ居置ク座ナル故ノ名ニテ四座置八座置

モ本ハ四座ノ置物八座ノ置物ト云フコトニテソノ置座ノ數以テ云タルナレハ一

種ノ物ノ名ニ非ズ、然ルヲヤ、後ニナリテハ其名ノミ古ニテ物ノサマハ變レリト

見ユ其故ハ式ニ諸祭ノ料物ノ中ニ載ルヲ見ルニ他ノ雜々ノ物ヲ居置ベキ料トハ

見エズ、タゞ別ニ一種ノ物ト見……然レハ延喜ノ頃ノハタゞ象バカリナリケリ、云々」

同^{四五}上而シテマタ幣ヲ『ミテグラ』ト呼ビタルハ言フマデモナキ處ナリ。依テ思フニ『ク

ラ』ハ祓除ノ料卽チ神ニ獻ズルコトニ付テ言ヒシナリ。此意ニテ Offer, Leistung ナル

Geld ト Gild トノ如ク、『クラ』トハ或種ノ課役ヲ云ヒ、コレニ座ナル漢字ヲ充テシガ、市場

ニ座ヲ有スルニ對シ貢獻スルモノ亦『クラ』ナリ、卽チ『イチクラ』ナリ、從テ又直ニ其ヲ

納ムルモノヲモ稱シテ座トナセシカ。『ギルド』ガーノ納。稅客體ヨリ納。稅主體ノ名ト

ナリシガ如ク、座卽チ『クラ』モ亦課役ヨリ轉ジテ課役ノ義務者ノ名稱トナリシモノ

トセンカ、座ハ卽チ in scot and lot ノコトヲ云フナリ。是レ予ノ所謂第二ノ想像說ナル

モノ、大要ナリ。^{貨幣ノ Geld ハ十世紀ノ頃猶 Leistung, Zins ノ意ノミニ用ラレシコトハ、ラムブレヒト先生既ニ之ヲ云ヘ}

草セルトキ附記
セズ、今補フ。

獨逸史第十八頁ヲ見ヨ。マタシユエルツ氏ノ貨幣起源史百八十頁ヲ見ヨ。此事予ノ祓除云々ノ論文ヲ

(五)

サテ想像說ハ右ニ止メテ、再ビ藝才七座之店ノ時代ニ歸ラン。庭訓往來ノ選成リ
シ時ヲ通說ニ從テ、元弘四年(1334)ナリシトセンカ、是ト時ヲ同フスル座ノ記事二項
アリ。卽チ左ノ如シ。

(一)康永二年十二月三日(1343)

綿新座神人社役、去三十日三百文外不出候間、今日綿賣三人所持綿、付納留置了、
四日、綿新座神人昨日三人所持綿之處、今日二人出人別二百文、

(一) 正平七年二月十八日(1352)

安居神人小袖座商人所役事

自吉野殿號被免許、商人公事難澁之間、今日予帶康永元二兩年院宣案、今日向姊
小路商人公事爲此輩奉行不可沙汰可相尋云々尋子細之處、任先朝御代例、被免公事之由、被下綸旨於洞院
殿、可相尋之由承候間、先日下知了云々

右ハ何レモ『祇園執行日記』ニアル由ニテ遠藤氏が其書百八十七、八頁ニ引ケルヲ孫
引スルモノナリ。祇園執行日記ニハ此ノ外ニモ關係ノ記事アルガ如ク、其書ヲ見ル
ヲ得ザルハ予ノ大ニ憾ム所ナリ。ソレハ兎ニ角トシテ、庭訓往來ヲ去ル二三十年ノ
間ニ此等記事アルヲ知ルハ大ニ助トナルナリ。即チ座ハ横井博士ノ云ハル、如ク
足利氏殊ニ義政時代(1444—1473)即チ西曆十五世紀ノ後半ニアルニアラズシテ、十四
世紀ノ中葉殊ニ南北朝時代ニアリ、而シテ吉野殿即チ吉野朝ノ天皇ヨリ所役公事
ノ免許ヲ得タル座アリシコトハ疑ヲ容レザルナリ。横井博士ハ室町時代ニ入リテ

始メテ座ノコトヲ記述セラレ『足利氏ノ治世ニ至リテハ將軍ヨリ各地ノ守護及神社佛閣皆其所領地ノ商業ニ座ヲ置キ』ト商業史ニ記シ、工業史ニモ『足利氏ノ治世ニ至リ將軍家ヨリ各地ノ守護神社佛閣皆其所領地ノ商業ニ座ヲ置キ……工業ニモ亦座ヲ置キ……商業ト毫モ異ラザリキ』ト之ヲ繰返サレ、芸窓襍載百二十五頁ニモ亦タ『室町將軍ノ治世ニイタリ將軍ヨリ各地ノ……ニ始マル』ト述べラレタリ。但シ芸窓襍載ハ少シク趣ヲ異ニシ右ノ庭訓往來抄ノ七座ノ名及建保三年ノ員數定メト寶治二年ノ式數定メノコトヲ記シヤ、人員ヲ限リテ專賣ヲ許シタルニ似タルノミ室町將軍ニイタリテ云々』ト附ケ加ラレタリ。予ハ博士ノ說ニ聊カ不平ナキ能ハザルモノナリ。博士ハ後世ノ專賣又株式ヲ以テ本位トシ、逆進シテ昔ニ及シテ右三ヶ條ヲ甚ダ輕キモノト取扱ヒ、サテ室町將軍ニ至リ始メテ云々ト說カレタルハAnachronismノ謗ヲ免レザル可シ。座ハ後世ノ株式ノ如ク專賣云々ヲ其本質トスルヤ否ヤハ十分研究シタル後ニアラザレバ容易ニ斷定シ得可カラザルナリ。西歐ノ『ギルド』ノコトヲ少シニテモ考ヘ合セタラシニハ斯カル議論ハ到底速言シ得可カラザル筈ニアラズヤ。博士ノミヲ賴トスルトキハ座ハ即チ足利氏時代ノモノト速

了スルモノ出ヅ可シ予ハ即チ誤マラ
レタル一人ナリ百年ハ二十世紀ニ於テモ十四世紀ニ於テモ百年
ナリ。之レヲ一足飛ニス可キモノニ非ザルナリ。而シテ足利氏ニ對抗セル吉野殿ガ
座ニ免許ヲ與ヘシ一事ハ博士ノ如ク之レヲ輕視スルコト予ハ爲シ能ハズ。座ハル
足利氏ノミノモノニアラズ。又タ吉野朝ノミノモノニアラズ。否更ラニ源ニ逆ラザ
可カラザルモノナリ。而モ庭訓往來ト祇園執行日記トノ二箇ノ全ク異レル根本史
料ニ其事ノ記サレアルハ偶々以テ座ノコトノ當時ニ於テ偶存の制度タラザリシ
コトヲ證スルモノト考ヘザルヲ得ザルナリ。遠藤氏百六十五頁所引『山東遊覽記』ニ鎌倉ニ材木座ハ
濱邊ノ漁村チ云フトアリ、材木座ノ名ハ今モ存スルコ
ト人皆知レリ。是レ或ハ
鎌倉時代ノ座ノ遺名カ而シテ祇園執行日記ノ右ノ二項共ニ主タル問題ハ所役公事ノコ
トニ係レリ。即チ座ガ *ad gegidam, in scotland lot* ニ就テ特殊ノ取扱ヲ受ケ居タルモノナ
ルコトハ十分ニ窺ヒ知ラル可キナリ。而シテ綿座ト云ヒ小袖座ト云フ共ニ衣料商
品ニ關スルモノナリ。此事輕ク視ルヲ得ズ。又其ガ祇園社ニ關係アルコトモ大ニ考
フ可キ所ナラズヤ。歐州中古ノ市ハ勉メテ寺院ノ領内ニ之ヲ立テ特別ノ取扱ヲ受
ケタリ。祇園社頭亦此クノ如キコトアリシナル可シ。若シ然リトスレバ『ギルド』ガ始
メ多クハ『セイント』ノ祭場ヲ中心トシタルコトニ太ダ似タルモノト云フヲ得可キ

ニアラザルカ。足利氏ノ如キハ單ニ前例ヲ踏襲シ之ヲ利用シタルニ過ギザラン。利氏ガ特ニ工業、商業ノ保護ノ爲メニ座ヲ置キタリトノ説ハ立證ノ材料アルコトニヤ?

タザル可カラズ。予ハ遠藤氏ニナクシテ博士ニノミアル此一條ノ斷言ニ對シテハ聊カ懷疑ノ態度ヲ執ルノ餘儀ナキヲ覺ユルモノナリ。然リ而シテ博士ノ其餘ノ記事ハ悉ク皆博士以前ニ遠藤氏之ヲ記述シ而シテ其記述ハ一層詳密ナルナリ而シテ予ハ其文言マデ一致スルヲ見テ聊カ疑惑ヲ感ゼザル能ハザルモノナリ。今試ニ博士ノ記事ト遠藤氏ノトヲ對照スルニ實ニ左ノ如キモノアルナリ。

(一)博士、商業史^{九十}天文年中京師ノ座ノモノ云々

遠氏商業志 二百三十四頁

(出典) 室町殿日記 天文十六年十一月十一日ノ條

(二)博士同 永祿年中云々

遠氏 二百四十四頁

(出典) 室町殿日記 永祿三年七月ノ條

(三)博士同 又京都魚座ノモノ云々

遠氏 二百四十四頁

(出典) 室町殿日記永祿三年八月

(四)博士同 文明中洛中紙座云々

遠氏 二百十五頁

(出典) 親元日記文明十四年三月二十六日

(五)博士同 天文年中伊勢神宮所領ノ米座云々

遠氏 二百十六頁

(出典) 昔物語

(古事類苑前處六百三十五頁ニ載ス)

(六)博士同 康永年中祇園社領綿座云々

遠氏 百八十七頁

(出典) 祇園執行日記康永二年十二月三日ノ條

(七)博士同 應永年中北野公文所法印云々

遠氏 百九十三頁

(出典) 宣胤卿記應永二十三年四月

(驛遞志稿百七頁ニ載ス)

博士工業史ノ『永正中京師大舍人座』云々ト芸窓襍載中ニ引キタル集古文書中ノ『洛中洛外飭事』ト『伯樂座問屋料事』ト、大乘院寺社雜事記ノ『正願院』云々トノ四項ダケハ遠藤氏ニハ所見ナシ。

其ハ兎ニ角トシテ座ヲ以テ足利時代ニ始マレリトスルコトハ右ノ事實ヲ見ルトキハ到底考ヘラレズ。予ハ寧ロ庭訓往來ノ時代ヨリ座ハ繼續的存在ヲ有シタルモノナラズヤト想像スルノ穩當ナルヲ思フモノナリ。果シテ然リトセバ西曆十四世紀ヨリ十六世紀ニ至ルノ間座ナルモノハ我邦ニ存在シタルモノニシテ英ノ『ギルダメルカトリア』ト殆ンド時代ヲ同フスルモノナルヲ知ルナリ。而シテ徳川氏ニ至リ(西曆十七世紀)明カニ座ヲ禁ジタル記事二項アリ。即チ

(一)慶安元年四月五日(1648)

諸商賣事右朱銅兩座之外私カニ座ヲ定ムル事先規ヨリ御停止タリ面々心次第賣買イタスベシ若有違背之輩ハ奉行ヘ告來ルベシ穿鑿之上急度可申付

(出典) 大阪式目大阪市中ノ令

(一)寛文六年九月(1666)

江戸町中藥屋共私トシテ座ヲ定メ藥種ノ内何ニヨラズ一所ニ買取シメウリ致シ、又ハ贖藥有之由ニ候、向後堅可爲停止、總テ藥種ニ限ラズ何事ニテモ座ヲ定メシメウリ致候モノ有之ハ兩町奉行ヘ可申達之旨江戸町年寄共ヘ申渡候

(出典) 初選集

右ハ遠藤氏ノ下編四十九頁ト六十三頁トニ出デタリ。是ニヨリテ見レバ十七世紀ノ半頃マデモ座ハ猶ホ其 kümmerliches Daseinヲ繼續シタルコト恰モ『プレストン、ギルド』ノ如キモノアルナリ。而シテ此時ノ座ハ占賣ノコトヲ主トシタルコト右ニ明ナリ。十四世紀ヨリ十七世紀マデハ三百年ナリ。此ノ長キ間座ノ名ノ滅セザルコトハ日本經濟史ノ研究ニ決シテ看過スルヲ許ササル大事實ニアラズヤ。決シテ室町時代ノ短キ間ニ踞踏スルモノニアラズ。而シテ三百年ハ長キ時間ナリ、其間幾多ノ變遷曲折ノアリタル可キハ言フマデモナシ。横井博士ノ如ク單ニ專賣ノ一事ニ限リ恰モ三百年ヲ壓搾シテ一塊ノ土トセラル、コト餘リニ餘リナラズヤ。予ハ此ク

kalidoskopisch ナラズニ genetisch, entwicklungsgeschichtlich ニ之ヲ適當ノ長サニ伸張シ、時
 間ナル觀念ヲ常ニ中心ニ置キテ有機的ニ座ノ發達變遷ヲ研究スル學者其人ノ必
 ズ在ル可キヲ信ズルモノナリ。予ハ其力モナク、其暇モナシ、而シテマタ其便宜ヲ有
 セザルナリ。

(六)

事ノ序ニ予ノ眼ニ觸レタル座關係ノ記事ノアル年數ヲグロツス氏ガ英國ノ『ギ
 ルド』ニ就テ試ミタルニ模倣シテ列記シテ此篇ニ附シ置キ、謹デ識者ノ更ラニ之ヲ
 訂正セラル、ヲ待タントス。天正ニテ止ム。

A、遠藤氏商業志ニ見エタルモノ(年序不同)

西曆	本朝年月	典	據	備	考
一二二五	建保三年七月十九日	吾妻鑑		鎌倉商人員數	
一二四八	寶治二年四月二十九日	右 同		同 式數	
一二五一	建長三年十二月三日	右 同		同 町丁定ム	
一二六五	文永二年三月五日	右 同		同 町御免	

一三三四	元弘四年正月	庭訓往來	藝才七座ノ店
一三四三	康永二年十二月三日	祇園執行日記	綿新座
一三五三	正平七年二月十八日	右同	小袖座
一三六九	應安二年二月十七日	建武式目追加	四條町立賣
一四二六	應永三十三年四月	宣胤卿記	阪本ノ馬借
一四二八	正長二年八月十二日	後鑑諸家文書纂ヲ引ク	石清水八幡宮在胡麻油商事
一四六三	寛正四年四月二十六日	親元日記別錄	四十八種賣物事
同	同 六月二十六日	右同	市座 輩
一四六四	同 五年二月八日	季瓊日錄	當寺門前商賈課後
一四六五	同 六年二月二十二日	右同	諸商賈役
一四七三	文明五年十一月二十九日	親元日記	競望之輩
一四八一	同 十三年七月	政所賦銘引付	紙座
一四八二	同 十四年三月二十六日	右同	洛中商賈紙座實入
一四九〇	延德二年十二月	伊勢山田三方古文書	太布新座
一四九七	明應六年九月	右同	布座
一五一二	永正九年十二月	右同	油座
一五〇九	同 六年	右同	かまノ座

一五一	同	八年九月	右	同	麴	座
一五五	永祿元年八月	右	同	座	酒	座
一四九	明應二年八月	右	同	古事類苑 六三三、	風宮ノトコ祭職	座
一四八	長祿二年二月二十日	右	同		摺	座
一五〇	明應九年十月十日	後	鑑		望	座
一四八	文明十九年三月二十九日	大内家壁書			公方買、守護買	座
一四九	明應四年八月八日	右	同		友	座
一五五	天文二十二年	駿河國新風土記			市ノ日來ル商人	座
一五七	元龜二年六月十日	北條氏古文書			振賣之商人、座之者共	座
一五四	天文十六年十一月十一日	室町殿日記			米	座
一五三	同	親後日記			鹽合物	座
一五四	同	同			町棚諸役御免許	座
一五七	天正二年十一月二十四日	武田氏古文書			米	座
一五八	天正十二年四月七日	集古文書			酒ノ振賣、堺南北	座
一五〇	永祿三年七月	室町殿日記			京都座ノ魚賣堺へ打越	座
同	同	右	同		友野座、米座、	座
一五六	同	今川家古文書				座

一五六九	同	十二年七月	古文書(?)	舁座十二人へ申付ル
一五八七	同	天正十五年十一月	當代記	遠江駿河十二座
?	同	(?)	武田氏古文書	十六座
?	?		天正ノ古文書(?)	京都米座一兩ニ賣渡ス
			(昔物語)	

B、古事類苑ニ見エタルモノ

西曆	本朝年月	典拠	備考
一四五九	長祿三年五月二十八日	大乘院寺社雜事記	茶座、糟座、其他四十ノ當方座
一四六三	寛正四年四月二十六日	親元日記	四十八種商賣物
一四六八	應仁二年十月十九日	大乘院寺社雜事記	布座、小物座
一四六九	文明元年十二月二十六日	右 同	符坂本座、矢木座
一四七〇	同 二年六月二十六日	右 同	矢木座、符坂本座
一四七三	同 五年三月二十七日	右 同	大乘院座、一乘院座
一四七五	同 七年七月二十九日	右 同	右 同、木津座、正願院座、「シタミ」ノ座、
一四八〇	同 十二年七月十七日	右 同	京座、奈良座、京都座
一四八一	同 十三年七月十七日	政所賦銘引付	紙座
同	同 十一月二十二日	大乘院寺社雜事記	油座、符坂座、木村座

一四九三	明應二年八月七日	徵古文府	酒座
一五二五	大永五年九月	大館常興日記	魚類本座
一五六九	永祿十二年七月	朝野舊聞哀稿	舛座、米之座
一五八二	天正十年七月二十一日	離宮八幡宮文書(黑板氏『徵古文書』甲集百七頁ニ收ム)	油之座、麴之座
一五八三	天正十一年十月二十二日	集古文書	博多打座
同	天正十一年	同	油座
同	同	同	粟津座
同	同	同	上下京惡錢座
同	同	同	洛中檜物座
同	十二月	同	材木座
同	同	同	油座
一五八四	同十二年十月十日	離宮八幡宮文書 (『徵古文書』百八頁)	雙六ノ賽ノ座米座、一兩ニテ賣渡云々
?	天正年間	昔物語	

右表ヲ一見シテ予ト共ニ散見ノ記事ノ案外ニ多キニ趣味ヲ感ズル人之アラシ
カ、亦タ以テ横井博士ノ七箇條ニ思ヲ煩ハシタルニ比スレバ聊カ研究ニ刺激ヲ覺
エザルヲ得ザルナリ。望ムラクハ、力アリ時アル學者ノ此一事ニ顧慮ヲ與ラレテ座
ノコトノ今一層確實ニ日本經濟史ニ拉シ來ラレンコトヲ。是レ予ノ切ニ祈ル所ナ

リ。(四十四年五月十五日草)

前號匡謬

頁	誤	正
三	Mercataria	Mercatoria
六	haus =	hansa =
同	Confrms	confirms
七	(領主)	(領主)ノ
同	Dienstverhältniss	Dienstverhältnis
同	ナイテネ	ナイテン
九	Civitalio	Civitas
一〇	予ノ意味スルハ延喜式ノ東西市ノ制是ナリ	予ノ意味スルハ式ノ東西ノ市ノ制是ナリ
一三	Marktpalizei	Marktpolizei
一四	店屋	店家
一五	Merchand	Marchand